

未来を信じ夢へと一歩ずつ

市長 清水 勇人

私が市立の小・中・高等学校、特別支援学校の学校訪問を始めてから、すでに163校、この間に会った子どもたちは約9万8千人に達しました。元気で挨拶をしてくれる子どもたち、美味しそうに給食を食べる子どもたち、笑顔で話しかけてくれる子どもたち、はにかみながら私に握手を求めてくる子どもたち、誰もが明るく元気で、とても素直な気持ちで接してくれました。どの学校でも、子どもたちの溢れる夢と希望の中で楽しい一時を過ごせました。でも、その影で進路に悩み、様々な環境に悩み、そして、いじめに悩んでいる子どもたちも、きっといたんだろうなと思っています。

毎日の忙しい仕事の合間に、進路に悩んでいる子は答えを出せただろうか、いじめに悩んでいる子は声を出して周りの大人たちに助けを求めることができただろうか、様々なことが頭に浮かんでいきます。私の好きな歌の一つに杉本竜一さん作詞・作曲の「BELIEVE (ビリーブ)」という曲があります。

～ いま未来の扉を開けるととき 悲しみや 苦しみが

いつの日か 喜びに変わるだろう | believe in future 信じてる ～

今、君たちが苦しんでいること、悩んでいること、その全てに君たちの将来への意味があります。未来を信じ、恐れずに君たちの夢を育て、いつの日か未来への扉を開けてほしい。私は、そう願っています。

君たちは、ご両親をはじめ周りの人たちの大切な命であり宝です。君たちの夢はさいたま市だけでなく、世界の未来への希望です。助けが必要な時はそっとでもいい、先生やご両親など周りの大人にSOSを出してください。大人は君たちの声に応えたいと願っているのです。

私たちはかけがえのない愛しい君たちの命を何よりも大切に育み、これからもずっと、君たちの限りない夢を全力で応援します。未来を信じて夢へと一歩ずつ力強く歩んでいきましょう。

保護者の皆様へ



さいたま市教育委員会

いじめや自殺など子どもをめぐる痛ましい事件が発生しております。さいたま市教育委員会は、市にゆかりのある方々に御協力をいただき、子どもたちに「希望をはぐくむメッセージ」をお届けすることといたしました。

学校では、子どもたちにメッセージを読み聞かせました。ぜひ御家庭でも話題にさせていただくようお願いいたします。